

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990101006
法人名	株式会社 さい
事業所名	グループホーム 花みずき
所在地	山梨県甲府市上阿原526-1
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 1 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	令和 7 年 1 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで畑が見え恵まれた環境の中利用者個々の役割として毎日行って頂き生きがいを持ち生活して頂いている。家庭的な雰囲気の中でも利用者の尊厳を守り、利用者のペースで生活して頂けるよう心掛けている。利用者はなるべく排泄をトイレで行うことが出来るよう、利用者の排泄の周期を把握し、支援を行っている。毎月イベントを複数企画し、利用者が活躍し、楽しんで頂ける機会を作っている。ご家族の悩みや相談に対し、来所持や電話で傾聴を行い支援している。地域の行事に参加したり、ボランティアに協力を依頼することで社会との繋がる機会を作っている。利用者ご家族の面会や訪問、電話、手紙、家族を絆を感じられるよう支援している。畑に白菜やキャベツ、ブロッコリーやネギなど植えて利用者と職員で大きくし、食べて楽しんでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

キャリアと人生経験の豊富な職員がそろっており、入居者に寄り添うケアが実践されています。このことが入居者の安心に繋がっています。家庭的な雰囲気と、家庭的な機能をケアに取り入れられるよう、入居者が出来ることとして、掃除を担ってくれる方、新聞を取りに行ってくれる方等、持てる力を十分に発揮して、認知症が進行しない様、役割を担い合える取り組みが実践されています。入居者の、できた喜びが職員の喜びとして感じられ、お互いが更なる高みを目指していく姿勢が伺えました。事業所の菜園ではボランティアの方の指導で、入居者も参加した野菜作りが行われています。ここでも入居者が様々な場面で役割を発揮して、張り合いのある生活が創られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価		
		ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に根差して「いつでもどこでもだれにでも」利用者様とそ の 人らしく生きていく事への支援を重視して職員と管理者と 理念を共有している	理念は、事業所内に掲示され、月に1回のフロア会議の場 で、入居者の尊厳を尊重することの大切さについて話し合わ れています。様々な研修を行う中で、研修の内容を理念に 結び付けて、ケアの考え方を共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	自治会に加入し地域の活動に参加している。組長会議や チームオレンジなどの会議に参加して、勉強会や活動に参 加させていただいている。利用者の作品など展示している	自治会に加入し、管理者が会議等に出席しています。自治 会では、避難訓練や防災への協力を依頼しています。地域 活動では、包括主体の認知症の勉強会等に管理者が出席 して、内容を職員間で共有しています。毎月発行しているお 便りは、自治会で回覧しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向け て活かしている	南東包括と活動し、意見交換や地域住民との交流を図っ ている。地域ボランティアを受け入れ、認知症の人の理解や支 援の方法を発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2か月に1回、対面にて運営推進会議を開催し利用者と家族 も加わり報告や意見交換など話し合いを行いご意見をサー ビスに取り入れている	運営推進会議には地域の様々な役職の他に、ボランティア や他法人の理事長がメンバーとして加わっています。会議の 議事録は掲示しており、内容はフロア会議で周知されていま す。防災に向けて、推進会議のメンバーで事業所周辺を歩 いて、安全路を確認する試みを行っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	甲府市役所には運営推進会議の内容を報告しご相談と指導 を受けている。 南東包括支援センターにはアドバイスを頂きチームオレンジ のメンバーに入り認知症を支えている	運営推進会議のメンバーであることから、定期的な会議での 情報の共有やチームオレンジでの活動が行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理 解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をし ないケアに取り組んでいる	新しい入居者が2人増え、玄関の施錠はまだ継続している が、生活環境に慣れてくれば解除の方向を考えている。身体 拘束適正化委員会を3か月に1回の開催をし、研修等も行っ ている。	研修では不適切ケアに関する動画を見て、職員一人ひと りに感想を出してもらっています。また、身体拘束適正化委員 会では、不適切ケアに関する事例検討を行っています。や むを得ない身体拘束の事例はないが、マニュアルは整備され ています。玄関錠は、入居者が慣れてきた為、開錠してい ます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所 内での虐待が見逃されることがないように注 意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、虐待についての理解を深め、虐待 防止に努めている。また虐待防止委員会を3か月に1回を 行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の 必要性を関係者と話し合い、それらを活用 できるよう支援している	現在、入居時より成年後見制度を利用している利用者が いる為、事例検討を行い、制度の理解をしている。 また、権利擁護に関する研修を行い、理解深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利 用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分 な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書やリスクについての説明を充分 に行い、同意を頂いている。また、法改正があった際には、 書面にて説明し同意を頂いている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: **グループホーム花みずき**

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対して日頃の生活を送る中で、意見や要望等話をし、頂けるよう努めている。ご家族には来所時や電話をする際に気軽に話して頂けるように雰囲気作りを心がけている。また、運営推進会議を通じて、利用者様やご家族様より意見や要望等をお伺いしている。	家族の要望は、面会時や電話にて伺っています。また、毎月発行している「花みずき便り」を通して、見学等の案内を通知しています。面会は週に1回、2名とし、30分まで開放しています。外出やそれに伴う外食は、制限なく実施されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議を行っており、職員の意見を伺っている。提案や要望に対して速やかに対処できる体制作りをしている。また、職員の個人面談を行い意見を集約し運営に反映している。	毎月のフロア会議において職員意見を聴取すると共に、管理者は職員に対していつでも話を伺う姿勢を示しています。職員からの意見や要望について、管理者では対応の難しい案件については、部長が面接を行い対応しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や勤務状況を把握できる体制を作っている。随所で個人面談を行い、働きやすい環境づくり、やりがいのある職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、研修を実施している。また、外部研修についても周知を図っている。また、研修参加者からフロア会議で内容の報告を行っている。月1回のフロア会議を行い、資質向上への取り組みを実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南東包括支援センターや他の施設と交流を持ち、勉強会に参加してサービス向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった際は、事前にケアマネがご自宅やご指定されている場所へ訪問し、可能な限りご本人と面談させていただいている。現在の生活の様子や今までの生活歴を伺いスムーズに入居につなげるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間、ご家族様と連絡を密にとり、不安や心配な点などを丁寧に聞き取りを行っている。サービス計画書をはじめ、ご家族様の意見を取り入れながらケアに当たるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付の際は、担当ケアマネジャー様の情報も集めた上で、グループホームでのサービスが必要であるか見極め、必要に応じて他のサービスの紹介を行っている。また担当ケアマネジャー様にも相談をかけ、施設への不安や難しい場合等を含め、適切な支援に結びつく様に配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場として、コミュニケーションを大切にし、利用者との関わり大切にしている。できる部分、できない部分を見極め、その人らしく過ごして頂けるよう支援し、共に支え合う関係作りを努めている。		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: グループホーム花みずき

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を御家族様の来所時や定期的に電話し連絡を密にとっている。急な面会にも対応し、御家族様と受診やドライブ等一緒に過ごせる時間を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人などの方々の面会も実施している。また、居室に家族様の写真等を掲示し、会話を広げたり思い出話のきっかけとしている。また、外出時に近所の方との交流をされたり、以前行ったことのある場所などへドライブをする機会を作っている。	馴染みの人との関わりは、近所の方が面会に来られたり、家族が連れて行ってくれたり、関係の継続支援が行われています。家族による受診の際は、入居者にとって懐かしい場所であるパチンコ店やお墓参り等、入居者にとっての馴染みの場所を察知して、支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の一人一人の性格を把握し、職員が仲介役となり、楽しく会話出来るように努めている。またお互いに支え合い生活できるよう支援している。席の配置に考慮し、皆で一緒にレクや体操が出来るようにしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話連絡を行い、御本人様や御家族様の様子を聞き取り、相談支援を行っている。また困った際には連絡できるように声掛けするなど関係性を継続している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションをとりながら、会話の中からご本人の思いや意向を汲み取れるように努めている。言葉での表現が難しい場合は、問いかけへの反応やご家族からこれまでの生活の様子等の情報を得て、本人本位の視点で置き換えるようにしている。	自分の思いを伝えるのが難しい入居者に対しては、日々の言動を職員間で観察し、フロア会議において深く掘り下げて思いの把握に努めています。入居者の基本情報や家族からの情報を基に、日々の会話から出てきた思いをくみ取ることに留意しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様等だけでなくアセスメントを行い、担当ケアマネージャー様やサービス提供事業者等からはお伺いしている。また、日々のケア中でも情報収集を行い把握できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人一人の生活を把握するよう、日々の生活の様子観察に努めている。また、ご希望に添えられるよう、ご家族様にもご協力を得ている。ご家族より昔の本人の様子を聞き取り、少しでも本人を理解できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを実施し、御本人様や御家族様の要望や意見の聞き取りを行い、主治医や看護師にも意見を求め、ケアの内容を決めている。また、その意見を参考にし、課題に変更があればケアカンファレンスの際に、話し合いを行い計画の見直しもを行っている。	介護計画は、利用者を担当している職員から、日々の様子を聞いてケアマネが作成し、管理者や職員全体での確認と共有が行われています。入居者のケースによっては、本社のケアマネに相談したり、主治医による往診の際に相談して、介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の支援記録に日々の様子やケアの実践とその結果等も記録し、職員間での情報共有に努めている。24時間の支援記録を個別で細かく記載することで、ミーティング、フロア会議で情報共有している。また、その記録から介護計画の見直しにも活かしている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: グループホーム花みずき

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族の要望で受診の同行を行ったり、テレビ電話での面会を予約・実施等柔軟に対応している。 その人がその人らしく過ごして頂けるよう、様々なニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア様に協力して頂き、外出支援や読み聞かせ等を行って頂いている。施設の草刈りや畑仕事も利用者と共にやって下さっている。運営推進会議や月1回の組長会議に参加し地域方に施設の毎月のお便りを配布して情報共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での隔週の往診がある。それ以外に個別で他の医療機関への受診を希望される場合は、ご家族様で対応をお願いしている。その際には心身の状態や内服情報等の情報共有している。	入居の際に受診支援についての説明は行われていますが、家族による受診付き添いの負担を考慮してか、ほとんどの家族は今までのかかりつけ医から事業所の往診医に変更されています。一方で、眼科や歯科については、家族による受診支援が継続されており、その際は事業所から細かな情報が伝えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時等いつも違う発見をした際は看護師へ報告を行っている。看護師は隔週の往診前に個々の状況を主治医に連絡し、往診がスムーズに行えている。また急な状態変化があった際は、直接訪問看護師へ連絡やしんげんネットを活用し主治医の指示を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は病院の運搬室と情報交換を行い、担当看護師から状況を聞き退院後の注意等の情報を主治医へ報告する等退院に向けて連携した関係を作っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居申込時に看取りや重度化については御家族へ説明し理解をえている。急変時は主治医や看護師に相談し対応について協議を行い、御家族が納得できるような支援を行なっている。	契約時に、終末期を迎えた際の看取りは、事業所としてできないことを伝え、了解を得ています。また、介護度が3になった場合には、特別養護老人ホームへの入居の申し込みについて、同意を得ています。緊急時の対応についても、書面で取り交わしています。入居者を最期まで看取りたいとの思いはあるが、職員のスキルアップが課題であるとの話を伺いました。	地域密着のグループホームとして、入居から看取りまでのニーズは高まっていることと思います。研修の機会を設けて、職員のスキルアップが向上され、尚且つ、医療体制を整えることでニーズに近づけるように感じます。そんな取り組みが少しずつ進むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応や救急法の研修を定期的の実施している。緊急時のマニュアル等も用意し、急変時の連絡や対応方法をフローチャートで明確化し、状態チェック表を作成している。スムーズな対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定し、年2回以上の避難訓練を行っている。消防署立ち合いでの消火訓練や自主訓練を行い避難方法を身に付けられるようにしている。運営推進会議にて避難訓練の様子を報告しており、地域の方々にも災害時の協力についてもお話しさせて頂いている。	事業所の立地区域は水害の指定区域であり、垂直避難のできない事業所は、近くの小学校を1次避難所とし、それに備えた準備が行われています。避難訓練では、日中は地元の消防団の協力の下で実施されており、夜間訓練では、ボランティアの協力が得られるよう運営推進会議で話されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より相手の立場に立った声掛け、尊厳を守る支援を心がける様に指導し、接遇の研修も定期的の実施している。特に入浴や排泄時には、プライバシーに配慮した声掛けを行う事やスピーチロック等には十分注意するように指導している。守秘義務の研修を行い、誓約書等も交わしている。	入浴や排泄の場面等、プライバシーに関わる言葉かけには職員皆が留意しています。中でも、「立って、待って、座って」等のスピーチロックには、その場で伝え方について話されています。接遇の研修はビデオを見ながら、定期的の実施しています。	

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

グループホーム花みずき

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で声掛けし意思決定を促している。また、意思疎通が困難な方には、表情や思いを汲み取る様に指導している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活歴や背景を理解し、要望や思いをできるだけ収集し支援している。入浴等は本人の気分が乗らないとき等があった際は、時間をずらしたり日を改めたりしている。余暇活動で体調不良や気分がのらない時は、無理強いせず、御本人の希望に添った支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自分で服を選択したり、化粧をできる環境をつくっている。整容は難しい時が多いが、声掛けし促している。出来ることに目を向け、行って頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付け、テーブル拭きや野菜の皮むきなどその方のできることを見極め、職員と一緒にやっている。おやつつく等では何を食べたいか聞き、要望に沿って企画している。	食事は業者委託になっていますが、2月から昼食は手作りを予定しており、入居者を巻き込んだ食材の買い出しや調理の場面が考えられています。入居者の希望は選択メニューとして提供されています。事業所の畑で栽培した野菜は、食事の場面で利用されています。	職員は、入居者と一緒に食事を摂っていないようです。食事の味や硬さ、食べ易さ等を代弁して、業者に伝えていくことも必要に思います。検査の体制が望まれます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病状により主食量は計量を行っている。個々の食事ペースに合わせ支援を行っている。摂取量が少ない方に食事の時間に限らず提供し、水分が摂れない方には好みの飲み物を提供している。夜間にも水分が摂れるように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケアに付き添っている。夜間は義歯洗浄剤に付け置きしている。自力でできる方は、毎食後歯磨き、及び義歯の洗浄を行っていただいている。拒否のある方も時間を置いたり、タイミングを見つけて介助をしている			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録により排泄パターンを把握するように努めて、時間でトイレへ誘導を行い、なるべく自分での排泄ができるよう声掛けを行っている。日中の失禁が無い方はリハビリから布パンツに変更している。出来る事、出来ない事を見極め、出来る事は行って頂けるよう声掛けしている。	排泄の自立に向けて、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツからリハビリパンツ、布パンツへの切り替えに努めています。夜間の排泄支援については、夜間の排泄パターンを基に支援しています。夜間はパットを用いて対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の間隔を確認、把握に努めている。腹部の様子などの状態観察を行い、水分量の確認も行っている。水分量が少ない方には声掛けし促している。運動量が少ない方は、散歩や畑などお誘いし活動量を増やしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日や時間帯のセッティングはあるが、週2回提供できるように、その日の御本人の意思や体調不良で入れなければ、翌日等に変更し調整している。入浴時に音楽を流したり、楽しく入れる工夫もしている。	入居者によっては音楽をかけながら入浴したり、職員と一緒に歌いながら、楽しみのある雰囲気を作っています。入居者は共有のシャンプーや石鹸を利用していますが、ボディークリームを持ち込んで使用している方もいます。拒否のある方には、職員の声掛けを工夫することで入浴が可能になっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備を行い、御本人が休みたい時にいつでも休めるようにしている。眠れない方は職員が話を傾聴し、温かい飲み物を提供したり、安心して休めるように努力している。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名: グループホーム花みずき

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)	外部評価	
			ユニット名()	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤管理指導を看護師が受け、連絡帳にて職員に周知出来るようにしている。また定期処方薬の処方・副作用の確認が出来るようにしている。訪問診療に服用後の状態を報告し、薬の見直しなど検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力と体調・気分に合わせて、清掃、洗濯干し・畳み、盛り付け、配膳、食器洗いなど家事を分担している。行事での挨拶や食事前のご馳走の献立の発表や記入等日常生活の中での役割を持ち、他者と係わる楽しみや仕事のある喜びや生きがいを感じて頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出掛けられるよう支援知る。又普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力そまがら出掛けられるように支援している。	敷地にある畑や近所へ散歩したり、テラスでのお茶会、ボランティアの方々の協力を得て、花見や紅葉狩りなどの外出を行っている。また家族のお墓参りにも出掛けている。	日常的な外出は、職員2人で5人位の利用者と共に、近くの店の駐車場やホーム内の廊下を歩いて筋力を維持したり、スクワットを20回行って筋力の向上に取り組むなどしています。季節の外出では紅葉や花見に出かけたり、夏祭りに参加しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりして施設管理している。また、個人でお金を管理している方は希望や必要に応じて買い物に同行し、自ら選択し購入支払いまで支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りが出来るよう支援をしている。	本人・ご家族の希望に合わせて定期的に電話されたり、手紙を書かれている。家族や知人から贈り物や手紙等があった際には電話をかける援助を行っている。年賀状作り、お手紙作りなどのレクの機会を作っている。		
52	(19)	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節感を感じられる毎月壁画を利用者様と一緒に作成し掲示している。利用者様の個々の心身状態を把握し、声のトーン、テレビや食器を扱う音、日差しの調整など行い不快や混乱のないよう配慮している。フロアには空気清浄機を設置し、一日最低3回の消毒を実施して感染対策も行っている。	入居者の中に絵心のある方がいて、その方が書いた下絵に入居者が貼り絵を行い、壁画としての作品が共用空間に展示されています。また、四季の飾りつけの他、廊下にはボランティアの活動コーナーの設置、お便りの掲載等、入居者が楽しめるような配慮が伺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルを3つに分け、食事のスピードや会話、異性への意識など利用者の希望を聞きながら席の配置を考慮している。一人で過ごしたい時、他の方と一緒に過ごしたい時などフロア・食堂・廊下・居室と自由に行き来している空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊る部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物活かして、本人が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	入居時、ご本人・ご家族と話し合い、使い慣れた馴染みの物、家具、食器、思い出の物や写真を持ち込んで頂き、ご本人の希望を取り入れながら部屋作りを行っている。ご本人様が安心して心から安らぐことができる空間になるように努めている。	居室を担当している職員が、入居者の要望を伺い花を飾ったり、好きな動物の写真を飾る等の配慮をしています。また、家族写真を拡大したり、時代劇が観たい方には環境を整えたりと、担当を中心に心地よく過ごせる居室となるよう工夫されています。	
55		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、脱衣場、居室には手すりが設置している。居室の入口に表札をつけ、自分の部屋が分かるようにしている。トイレ・お風呂・事務所など大きい字で表札を貼り付けてあり、トイレは廊下に目印を付けている。歩行不安定な方でも安全に移動出来るようにしている。		